研究拠点形成費等補助金

高度医療人材養成拠点形成事業

（高度な臨床・研究能力を有する医師養成促進支援）

「消化器難病の克服を目指す最先端臨床研究推進事業」

# 外部評価委員会報告書

令和８年 10 月

国立大学法人
滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

# 目次


1．事業概要 ..... 2
2．外部評価 概要 ..... 3
3．評価結果：SUMS 臨床研究推進プログラム ..... 4
4．評価結果：診療参加型臨床実習 ..... 5
5．評価結果：事業共通 ..... 6
6．総合評価 ..... 7

# １．事業概要

高度医療人材養成拠点形成事業（以下、本事業という。）は、令和６年度に文部科学省より公募された事業であり、大学病院において、医師の働き方改革を進めながら、教育・研究支援者を活用するとともに、医学生及び医学系大学院生に対して教育的配慮の下、研究活動に参画する機会を確保することや効果的な臨床実習を行うことで、臨床教育・研究に関する知識・技能等を有する優れた医師を養成し、我が国の学術研究とともに新たな診断・治療法・医薬品・医療機器の開発等を見据えた臨床研究等を推進し、医学・医療の発展や研究力の強化に貢献することを目的とするものです。本事業は、令和６年度から令和 11 年度まで継続支援され、事業終了後も各大学において取組を自走することが求められております。

本学は、タイプＢの「特色臨床研究基盤人材養成拠点」として採択を受けております。これは、特色ある診療領域の体制を強化し、国際レベルの臨床研究を特色ある領域で進めることで、その診療領域における臨床研究をけん引し、大学の研究力強化とともに、高度な臨床教育・研究に関する知識・技能等を有する医師養成を行う拠点を形成するものです。

本学の強みである消化器領域を柱とし、「消化器難病の克服を目指す最先端臨床研究推進事業」と銘打って、事業に取り組んでおります。具体的には、医学生・大学院生・教員が一体となり「屋根瓦方式」で臨床研究のノウハウを継承する「SUMS 臨床研究推進プログラム」と、医学生の診療参加型臨床実習指導において、教員とともに大学院生が指導に当たり、中長期的な教育体制の構築を図る「診療参加型臨床実習」の２プログラムで構成しています。

本事業の中間年にあたる当年において、さらなる事業の活性化と評価指標の適切性や達成状況などを客観的に評価するため、外部評価を実施することとし、本報告書に評価結果を取りまとめました。今後も、臨床教育・研究に関する知識・技能等を有する優れた医師を養成し、医学・医療の発展や研究力の強化に貢献するため、事業の推進に取り組んでまいります。

## ２．外部評価 概要

【開催概要】

日　時：令和８年９月 29 日（火）16：00～17：40

場　所：滋賀医科大学　管理棟２階　中会議室

【外部評価委員】

上本　伸二 委員（医療法人社団昴会　理事長）

川口　晃 委員（ニプロ株式会社　グルーバルイノベーション統括本部　iMEP 本部
メディカルセンター長）

林　嘉宏 委員（立命館大学　薬学部腫瘍病態制御学研究室　教授）

【本学陪席者】

遠山　育夫（学長）

尾松　万里子（副学長（研究・広報担当））

岩下　拓司（消化器内科学講座　教授）

稲富　理（消化器内科　特任教授）

貝田　佐知子（消化器外科　講師）

笠間　周（臨床研究開発センター　教授）

向所　賢一（医学・看護学教育センター　教授）

山田　篤史（創発的研究センター先端医療研究開発部門　特任准教授）

【評価の観点】

［SUMS 臨床研究推進プログラム］

①本事業での取組は、消化器分野における学生の臨床研究の素地を身に着けることに寄与しているか

②講座へ配置した医学生、大学院生、教員が屋根瓦方式で、研究を継承する体制が整っているか

③医学生や大学院生および研究支援者の配置により、教員の研究活動の選択と集中に寄与しているか

［診療参加型臨床実習］

①門田レポートに定める医行為について、学生が習得すべき医行為の経験機会の確保に努めているか

②大学院生による診療参加型臨床実習の指導により、教育能力向上に寄与しているか

③「きめ細かな臨床教育の実施」と「指導医の教育負担の軽減」の両立という課題に対し、寄与する取組となっているか

［事業共通］

①事業計画の見直しによって、事業目的を達成する改善が行われているか

②本事業に係る情報発信が効果的に行われているか

③医師の働き方改革に寄与する取組となっているか

## ３．評価結果：SUMS 臨床研究推進プログラム

**①本事業での取組は、消化器分野における学生の臨床研究の素地を身に着けることに寄与しているか**

| 評点平均 | 4 点 |
|---|---|

外部評価委員からの講評

| 講評 |
|---|
| SA に参加した学生のモチベーション向上はアンケートからよく理解できる。 |
| 医学生が研究課題に参画するためのシステムが整備されている。実際に参加した学生のアンケートからは研究への興味・関心が高まったという意見が多く効果も見られる。 |

**②講座へ配置した医学生、大学院生、教員が屋根瓦方式で、研究を継承する体制が整っているか**

| 評点平均 | 3 点 |
|---|---|

外部評価委員からの講評

| 講評 |
|---|
| プログラムの開始が遅れているため、まだ評価できないが今後に期待する。 |
| 今後の制度の充足に期待したい。 |
| 令和 8 年度より SA の配置がテーマごとに進められ、今後 RA の配置も進めば研究体制の屋根瓦方式の完成が見込まれる。 |

**③医学生や大学院生および研究支援者の配置により、教員の研究活動の選択と集中に寄与しているか**

| 評点平均 | 4 点 |
|---|---|

外部評価委員からの講評

| 講評 |
|---|
| アンケート結果からは成果は出ているようだが、今後の学術実績の向上に期待したい。 |
| TA にとって負担が生じないかが懸念される。 |
| 統計専門家の配置など支援体制が整備されつつある。『研究時間確保』を評価する方法については検討が必要である。 |

## ４．評価結果：診療参加型臨床実習

**①門田レポートに定める医行為について、学生が習得すべき医行為の経験機会の確保に努めているか**

| 評点平均 | 4.7 点 |
|---|---|

外部評価委員からの講評

| 講評 |
|---|
| 順調に推進されている。 |
| 達成率、経験率の向上は素晴らしい。医行為の研修が安全な環境下で行える場を作っていただきたい。 |
| 令和 6 年度から令和 7 年度にかけて経験率の著しい改善がみられ、取り組みの成果と言える。 |

**②大学院生による診療参加型臨床実習の指導により、教育能力向上に寄与しているか**

| 評点平均 | 4 点 |
|---|---|

外部評価委員からの講評

| 講評 |
|---|
| 大学院生のアンケート記述より、教育者としての理念が築かれてきている。 |
| 「ならうより教えろ」ということで教育能力の向上には大きく貢献すると思う。ファシリテーターとしての成人教育も大切かと思う。 |
| TA が学位取得後に教員になった実績あり。 |

**③「きめ細かな臨床教育の実施」と「指導医の教育負担の軽減」の両立という課題に対し、寄与する取組となっているか**

| 評点平均 | 4 点 |
|---|---|

外部評価委員からの講評

| 講評 |
|---|
| 指導者・大学院生のアンケートから両立してきているように思われる。 |

## ５．評価結果：事業共通

**①事業計画の見直しによって、事業目的を達成する改善が行われているか**

| 評点平均 | 3.7 点 |
|---|---|

外部評価委員からの講評

| 講評 |
|---|
| 令和８年４月からの運営委員会の始動により、本来の形（あるべき方向）に向かってきている。 |
| 運営委員会の設置、SA 募集方針の改善により、実質化に成功している。 |

**②本事業に係る情報発信が効果的に行われているか**

| 評点平均 | 3.3 点 |
|---|---|

外部評価委員からの講評

| 講評 |
|---|
| ホームページの内容は、これからである。 |
| ウェブを用いて、より視覚に訴えるものにしていただきたい。 |
| 専用ホームページの開設がなされた。 |

**③医師の働き方改革に寄与する取組となっているか**

| 評点平均 | 4 点 |
|---|---|

外部評価委員からの講評

| 講評 |
|---|
| 指導医への研究支援＋教員負担軽減により進んでいる。できればデータとして示されたい。 |
| 研究時間の確保について、どのように客観的に評価するのかが今後の課題。 |

## ６．総合評価

| 講評 |
| --- |
| ・研究推進プログラムの開始の遅れは、大学講座の諸事情によるものであることは分かったが、開始してからは順調に進んでいる。今後は各研究の推進状況を定期報告で示していただきたい。長期的には、論文数の増加はもちろん、若手医学研究者の増加が目標になる。<br>・クリクラに関しては、この取り組みで本来の診療参加型臨床実習に向かっており、全国モデルとして示してほしい。また関連病院にも広げてほしい。 |
| ・今後このシステムが整っていくと、評価も向上すると思う。評価をどのように客観的に行えるかについては今後検討を要すると思う。（行為に対する評価システムの構築は特に重要だと思う）<br>・各研究やデバイス開発共々、実際の臨床の場に結びつけていけるような発展を期待する。医療研修においては、より安全な環境下で研修を実施できる場を構築いただきたい。 |
| ・医学生が研究へ興味をもつシステムができつつある。今後、ＲＡの配置が進めば、研究の屋根瓦方式が完成し、リサーチマインドを持った臨床医の養成に寄与すると思われる。<br>・時間確保の評価が今後の課題。 |

以　上